

ハイドンの ロンドン精神

Vol.5

ボッケリーニ
交響曲ニ短調 Op.37 No.3

F.J.ハイドン
交響曲第101番 ニ長調
Hob.I:101 「時計」

F.J.ハイドン
交響曲第102番 変ロ長調
Hob.I:102

指揮 / 角田鋼亮
(音楽監督)

©Hikaru Hoshi

2024年12月6日(金) 18:45開演
(18:00開場)
[18:25～ 指揮者 角田鋼亮プレトークあり]

ザコンサートホール
名古屋・伏見・電気文化会館

TEL.052-204-1133 名古屋市中区栄2-2-5(地下鉄「伏見」駅より徒歩2分)

入場料(全指定席) 一般 4,000円 / U25 1,000円

※未就学児入場不可 ※U25は公演当日25歳以下対象、入場時要証明書
※やむを得ない事情で公演の中止または演奏曲目・曲順が変更になる場合がございます。

発売日 一般9/11 会員先行9/9、10

※当団会員様は会員先行発売・会員割引価格でのご購入が可能です。(当団事務局・チケットシステムでの購入時)

チケット 取扱い
・セントラル愛知交響楽団 TEL.052-581-3851
・愛知芸術文化センタープレイガイド TEL.052-972-0430

お申込み
お問合せ

セントラル愛知交響楽団

TEL.052-581-3851
(10:00～17:30/土日祝休)

ホームページからも申込みいただけます。
<https://www.caso.jp>



ハイドンの ロンドン精神

Vol.5

「ハイドンのロンドン精神」もお陰様で今回で第5回を迎える事となりました。少しずつ名古屋でのハイドン愛好家が増えて来ているようで、心から嬉しく思っております。前回演奏した『軍隊』は、「ハイドンが現代に蘇ったらどうするのか」をテーマに、私の空想からの演出付きでお楽しみ頂きましたが、今回は純粋に音楽の内容で勝負できたらと思っております。

『時計』は第1楽章が音階から出来ている事やテンポが速い事もあり、彼の持ち前のユーモアよりも全体の激まない流れが魅力的な作品です。102番はロンドンセットの中で私が一番好きな作品。私がこの作品にあだ名をつけるならば『変態紳士』。一聴とても堂々としていて優雅さもありますが、ところどころ「えー!」と叫びたくなるような意外性が顔を出します。

1曲目に演奏するのは「ハイドン夫人」とも呼ばれるボッケリーニのニ短調の交響曲。ハイドンとは対照的な憂いや晴れと雨の合間を行き来する様な雰囲気の移り変わりをお楽しみ下さい。

さあ、最終回まであと2回です。我々の『時計』と一緒に時を刻みましょう。

セントラル愛知交響楽団音楽監督 角田 鋼亮

『ハイドンのロンドン精神』では、豊富な音楽構成と管弦楽としての響きが充実したハイドンの名曲の中から、交響曲確立期と言われた晩年の「ザロモン・セット」(全12曲)に焦点を当て、同時期に活躍した作曲家の交響曲も取り上げています(全6回)。

[指揮] 角田鋼亮 (音楽監督) Kosuke Tsunoda

東海高校卒業後、東京芸術大学大学院指揮科修士課程並びにベルリン音楽大学国家演奏家資格課程修了。2008年、カラヤン生誕100周年記念の第4回ドイツ全音楽大学指揮コンクール第2位入賞。2010年、第3回マーラー指揮コンクールにおいて最終の6人に残った。ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、ブランデンブルグ交響楽団、上海歌劇院管弦楽団、NHK交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団など主要オーケストラと共演している。2016年「第11回名古屋ペンクラブ音楽賞」、2020年「令和元年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞」「名古屋市立文化振興事業団第36回芸術創造賞」を受賞。2015年よりセントラル愛知交響楽団の指揮者を、2019年より常任指揮者を務める。2016-2020年大阪フィルハーモニー交響楽団指揮者、2018-2022年仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者を歴任するなど、いま日本で最も期待される若手指揮者の一人として各地にて活躍の場を拓いている。2024年4月より、セントラル愛知交響楽団音楽監督に就任。

セントラル愛知交響楽団 Central Aichi Symphony Orchestra

1983年ナゴヤシティ管弦楽団として発足。1997年に現名称に改名。2021年4月に愛知県より認定を受け公益社団法人となる。2023年創立40周年。2024年4月から音楽監督に名古屋出身の角田鋼亮が就任。名誉音楽監督にレオシュ・スワロフスキー、桂冠指揮者に小松長生、特別客演指揮者に松尾葉子、首席客演指揮者に齊藤一郎、正指揮者に古谷誠一を擁し活動を行う。

定期演奏会、第九の他「超!有名曲」「Wコンチェルト」「オペラハイライト」等のシリーズを自主公演として展開。バレエ、オペラ等の依頼公演にも数多く出演。独自の構成によるプログラム、幅広いレパートリーを生かした学校公演、演奏者と聴衆の距離を縮めるような室内楽公演にも積極的に取り組んでいる。海外(2007年中国・2009年タイ・2017年韓国)でも公演し成功を収める。

Vol.6のご案内 (会場) 電気文化会館ザ・コンサートホール

指揮/角田鋼亮 (音楽監督)

Vol.6 (2025年)

クラウス:交響曲ハ短調VB142
ハイドン:交響曲第103番変ホ長調「太鼓連打」
ハイドン:交響曲第104番ニ長調「ロンドン」

やむを得ない事情で演奏曲目・曲順が変更になる場合がございますのでご了承ください。

